

**2006年 8月改訂(第3版、日本薬局方改正に基づく改訂)

* 2006年 3月改訂

貯 法：遮光した気密容器

使用期限：5年(容器に記載してある。)

日本標準商品分類番号

8 7 2 6 1 9

* 承認番号	16000AMZ05680
薬価収載	1985年12月
販売開始	1950年12月
再評価結果	1983年 4月

外皮用殺菌消毒剤

** 日本薬局方

アクリノール水和物

「純生」アクリノール

**【組成・性状】

本品は定量するとき、換算した脱水物に対し、アクリノール($C_{15}H_{15}N_3O \cdot C_3H_6O_3$) 98.5~101.0%を含む。

本品は黄色の結晶性の粉末である。水、メタノール又はエタノール(99.5)にやや溶けにくい。水溶液(1/100)のpHは5.5~7.0である。

【効能・効果】

化膿局所の消毒

泌尿器・産婦人科術中術後、化膿性疾患(せつ、よう、扁桃炎、副鼻腔炎、中耳炎)

口腔領域における化膿局所の消毒

【用法・用量】

化膿局所の消毒：0.05 ~ 0.2 %の液として使用する。

含嗽：0.05 ~ 0.1 %の液で含嗽する。

【使用上の注意】

- 副作用：本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
皮膚 ^(注1)	塗布部の疼痛、発赤、腫脹、潰瘍、壊死
過敏症 ^(注2)	発疹等

(注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行

うこと。

(注2) 異常が認められた場合には使用を中止すること。

2. 適用上の注意

外用にのみ使用し、内服しないこと。

【薬効薬理】

グラム陽性・陰性菌に有効で、特に連鎖球菌、ウエルシュ菌、ぶどう球菌、淋菌に対し、静菌及び殺菌作用がある。作用機序は、生体でアクリジニウムイオンとなり細胞の呼吸酵素を阻害するといわれている。生体組織にほとんど刺激を与えず、血清やたん白質の存在下でも殺菌作用は低下しない。

【取扱い上の注意】

衣類に付着すると黄色に変色し、脱色しにくいので注意すること。

《配合変化》：Cl⁻イオンの共存する場合、濃度による塩酸塩の析出することがある。

【包 装】

25 g, 100 g, 500 g

【参考文献】

第十五改正日本薬局方解説書 2006,
(広川書店)

文献請求先：

純生薬品工業株式会社 学術企画室

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-13-5

TEL:03-3862-3151, FAX:03-3862-3154

*製造販売元

純生薬品工業株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-13-5

平成18年8月作成